

〈選定理由〉

ケヤキは、

日本を代表する広葉樹で、街路や公園のほか、市内では歴史ある神社や寺院にもよく植えられている。その樹形は逆円錐状(放射状)の見事な均整美が特徴で、四季折々の趣も備えている。また、環境の変化をいち早く伝えうる習性を持ち合わせており、人と自然にやさしい、潤いと安らぎのまちづくりを目指す、環境モデル都市としての本市にふさわしい木である。

ツバキは、

日本固有の自生種から園芸品種まで多くの積類があり、早春から五月頃まで花を楽しむことができる。幹の材質は粘り強くて折れにくく、風雪に耐え、自然環境に適応する性質を持っている。市内では山間部に自生地が多く、旧富山市、八尾町、山田村の花木として親しまれてきた経緯がある。したがって、旧市町村の歴史と文化を受け継ぎ、都市と自然が調和した環境にやさしいまちづくりを目指す本市にふさわしい花木である。

ヒマワリは、

近年は小輪から大輪の花を咲かせるものがあり、元気で明るいイメージを持つ夏を代表する花で、種子は食用や燃料になり、葉や茎は家畜の飼料となるほか、滋養強壮等の薬効もある。

力強く太陽に向かって咲く花の姿は、個性と創造性に満ちた、活力あふれるまちづくりを目指す本市にふさわしい花である。

【解説書】

ケヤキ〈欒〉

ニレ科ケヤキ属で、本州、四国、九州などで見られ樹高は20m~30mに達し日本の代表的な落葉広葉樹です。

環境の変化を、いち早く葉を落として我々に教えてくれる性質があります。逆円錐状(放射状)の樹形は、ほかの木に見られない均整美で本市の公園や街路樹としても多く植えられ春の新緑、夏の緑陰、秋の紅葉と趣があります。

市内には、県指定の天然記念物として「西岩瀬諏訪社の大欒」と「上黒瀬の大欒」があるほか、市の保存樹木として多く指定されていることや、南部地域の屋敷林や神社・仏閣の樹木として多く取り入れられており地域と密着した樹木です。

ケヤキは、材が堅く、木目も美しく古くは神社仏閣の建築材や家具材、細工材として利用されていたり、愛好家の盆栽としても見事なものがあります。

ツバキ〈椿〉

ツバキ科ツバキ属で、市内には古来より日本固有の自生種から園芸種まで多くの種類があり、花の時期は、種類が多いことから早春から五月頃まで順次咲き、長く花を楽しむことができます。材は粘り強く、幹は折れにくく、根元で分岐するなど環境に適応する性質を持ちあわせています。

また、葉に厚みがあり、種子から採れるツバキ油は頭髪用・食用・機械用と広く用いられることや切り傷、すり傷など薬効性も持ち合わせています。

花言葉は「理想の愛、贅沢、おしゃれ、愛らしさ、謙遜の美德」などを持ち、市内の多くの庭に植えられ愛着をもって栽培されています。

ヒマワリ〈向日葵〉

キク科ヒマワリ属で、夏を代表する花。

イベント性にも優れ、各地ではヒマワリで作った迷路が出現するなど花壇として多く利用されています。

種子は、食用に供されたり、種子から採った油は石鹼や塗料の原料、葉や茎は家畜の飼料となるほか下痢止め、滋養強壮などの薬効性も持ち合わせています。

花言葉は、「あこがれ、崇拜、熱愛」などを持ち、太陽に向かって行く様は、我々が持ち続ける必要性を示しているようです。